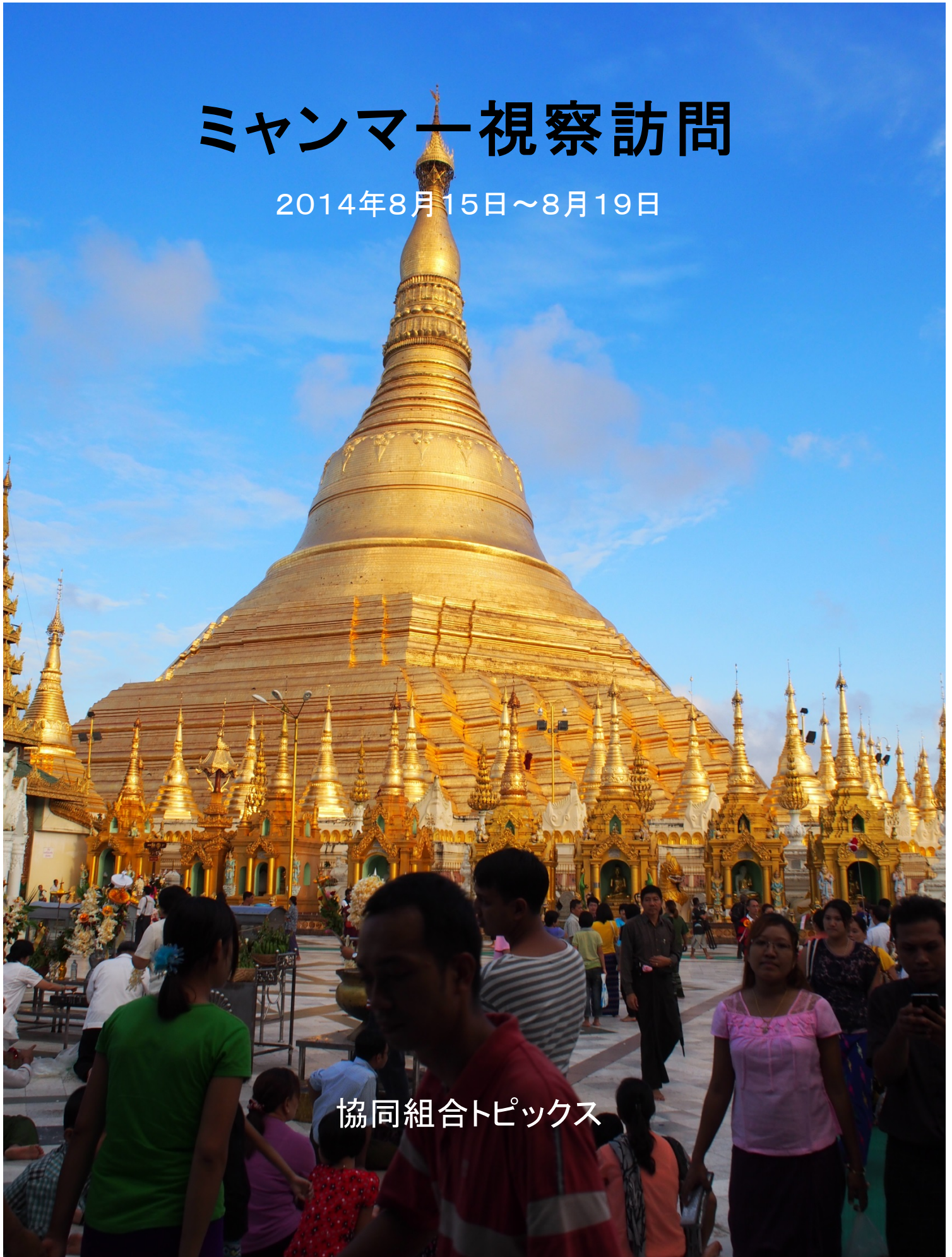


ミャンマー視察訪問

2014年8月15日～8月19日

協同組合トピックス



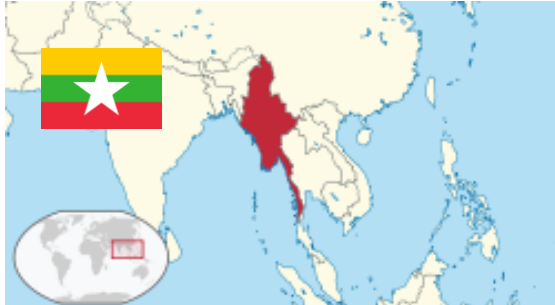
訪 問 趣 旨	
協同組合トピックスの技能実習生共同受入事業はこれまで中国一辺倒で来ましたが、様々な面で実習生のチャイナリスクを感じるようになりました。近年、技能実習生の送出し国が多様化している中で、2012 年 4 月以降、日本政府が新たな経済協力を実施するようになり、更に公益財団法人国際研修協力機構(JITCO)が2013 年 5 月に新たなR/D締結をしたこともあり、日本との賃金格差が 20 分の 1 ともいわれるミャンマーに着目し、現地で確認する必要があると理事会で判断しました。「アジア最後のフロンティア」との呼び声も高く注目している中で、経済の状況や産業の状況、生活レベルなどを確かめたうえで、当組合の中国、ベトナムに続く送り出し国になりうるかその可能性を探ることにしました。	
参 加 者 諸岡 純 (理事長)、杉浦 和博(専務理事)、近藤 康治(理事)	
日 程	
8 月 15 日(金)	8:30 中部国際空港 3 階出発ロビー搭乗手続き 10:30 VN0347 便出発 (ハノイ経由 13:20～16:50 乗換) VN0957 便 18:10 ヤンゴン到着 アライバルビザ申請入国 20:00 サミット パークビューホテルチェックイン
8 月 16 日(土)	9:00 ミャウガンダー工業団地 国営企業ミャンマー・エコノミック Corp No.2 Steel Mill (鉄鋼製品製造会社)見学 13:30 ミンガラドン工業団地 民営企業トライアングルリンクス社(鉄鋼製品製造会社)見学 15:30 ティラワ工業団地及び、ティラワ港見学
8 月 17 日(日)	9:30 ヤンゴン市内市場調査及び買い物 ジャンクションスクエア、ユサ・ナプラザ 他大型ショッピングモール見学 13:30 J&K mbi(Myanmar Business Incubation)Center 訪問 16:00 シュエダゴン・パゴダ参拝
8 月 18 日(月)	8:30 送り出し機関 ミャンマーユニティー、ハウ・ナンサービス ハウ・ナン外国語学校 訪問視察 17:30 ヤンゴン空港搭乗手続き 19:10 VN0956 便出発(ハノイ経由 21:30～8/19 0:05 乗換)VN0346 便
8 月 19 日(火)	6:55 中部国際空港到着

ミャンマー視察訪問ご報告

2014 年 8 月 20 日
協同組合トピックス

チャイナプラスワンと言われて久しいですが、外国人技能実習生の送出し国も近年は A. S. E. A. N. 諸国の増加が目立つようになり、中でもベトナムやタイの急速な受入人数増加現象が起きています。

当組合ではベトナムやタイについて既に現地視察、業務協定の締結などを実施してまいりました。しかし、ベトナムでは入国後の失踪と窃盗などの軽犯罪が依然多い状況があります。早期にこの問題を解決することが課題となっています。またタイにおいては既に A. S. E. A. N. の中核をなすまでの発展状況で、タイ国内では労働者不足となり、ミャンマー・ラオス・カンボジアなど近隣諸国から外国人派遣労働者を多く受け入れる状況となっています。



今回訪問のミャンマー連邦共和国は人口 5, 1 4 1 万人。北緯 10 度から 28 度の間に位置し、南北に伸びる長い国土が特徴です。陸では中国・タイ・ラ

オス・インド・バングラデシュと国境を接し、海側はアンダマン海とベンガル湾に面しています。国土の大半が熱帯又は亜熱帯。沿海部は年間降水量が 5000mm を越える多雨地域で、典型的な熱帯モンスーン気候。マンダレーやバガンが位置する内陸部は熱帯サバンナ気候。またシャン州、カチン州やチン州の山岳地帯では最寒月の平均気温が 18 度を下回る地域があります。国土の中央をエーヤワディー川（旧名イラワジ川）が流れ、河口付近は広大なデルタ地帯です。



19世紀中ごろにイギリスの植民地（イギリス領インドに編入）になり、20世紀初頭から独立運動が起きました。1942年ビルマ戦役が始まると翌年、日本の後押しでビルマ国が建国されました。しかし、第二次世界大戦の末期に再びイギリス領となり、1948年にビルマ連邦（現ミャンマー連邦共和国政府）として独立。1962年軍事クーデターで軍事独裁のネ・ウィン政権が誕生しました。鎖国政策とまで言われた社会主義経済政策の失敗により国内経済が破綻して貧国となりました。この間に中国の影響下に入りました。



1988年民主化と政権交代の運動が起きましたが同年再度軍事クーデターにより軍事独裁政権が誕生し、翌年からアウンサンスーチーさんは自宅軟禁を繰り返すことになりました。その後2003年のアウンサンスーチーさんの拘束を機に欧米諸国は社会主義政策の放棄をしても、反民主化政策に対し強い経済制裁を行いました。2007年テインセイン政権発足によりそれまでの中国一辺倒の外交政策から一転、欧米諸国や周辺国との関係修復を進め2010年11月アウンサンスーチーさん解放に続き、翌年テインセイン氏が大統領に就き現在の文民政権が誕生しました。こうした民主化の進展を踏まえ欧米諸国の経済制裁は大幅に緩和しました。

最後のフロンティアと言われるミャンマーは、これまでの農業国から工業の発展に力を入れて経済発展を目指す方針を打ち出しました。日本政府もODAに乗り出し、中でも2013年ティラワ地区の工業団地開発を中心に経済特別区構想に着手しています。また工業化の人材育成として日本への技能実習生の送出しにミャンマー政府は力を入れると表明しました。今後の経済成長へ期待が高まっています。



8月15日 10:30 中部国際空港発ベトナム
航空ハノイ経由ヤンゴン行きVN0957で出
発。ミャンマー連邦共和国は日本と時差が2
時間半あり、現地時間18時10分ヤンゴン国
際空港に予定時刻通り到着しました。機外に
出ると途端にムツとした暑さに汗がジワッ

と噴き出して熱帯に来たことを実感しました。入国ビザが必要ですが、現地空
港到着時に空港窓口で即時発行するアライバルビザを使い入国。(今回は案内を
お願いした現地送出し機関の招聘書と法人登記証明書の写しを添えて商務目的
で申請書を提出しました。) 手数料の50USドルを支払い10分程度待つと目の
前で小さなプリンターからVisaシールを発行してパスポートに貼り付けて完了
です。

ヤンゴン国際空港はヤンゴン市内にあり、そもそもヤンゴン市は軍事政権が
首都をネピドーに2006年遷都するまで首都として発展し、現在もミャンマ
ー最大の都市であり経済の中心地になっています。

しかし、空港上空から見た市街地はやけに暗く、
更に、空港から車で市内のホテルに向かう道中の
沿線も暗闇の中といった印象でした。現地の方に



聞くと毎日のように起きる停電は時々長時間もあり、暮らしの中での灯りは
我々の生活とは大きく違い必要最小限にして、薄暗い程度のものが当たり前だ
そうです。もちろん一旦停電になれば暗闇のなか蠟燭の灯りくらいで生活して



いるそうです。

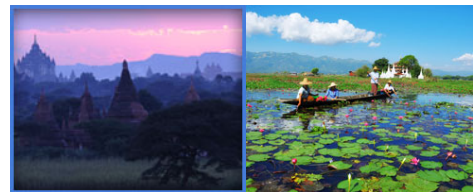
現地時間午後 8 時過ぎようやく連泊滞在するサミットパークビューホテルに到着しました。早速チェックインを済ませて、現地送り出し機関ミャンマーユニティ主催の歓迎会で夕食を取りました。



このサミットパークビューホテルはヤンゴン市内のほぼ中央に位置しミャンマーの象徴的仏教寺院シュエダゴン・パゴダと旧国会議事堂を結ぶ人民公園に面しています。ランクは四つ星。

外国人のホテル代は二重価格でかなり割高です。今回一人一泊 180US\$でした。

外国人観光客が多く訪れる先はヤンゴンを出発し、バガン(地平線まで続くパゴダの幻想的風景)からインレー湖(水上生活者の集落)の周遊が代表的コースだと教えてもらいました。



8 月 16 日午前 ヤンゴン近郊のミャウガンダー工業団地にある国営企業ミャンマー・エコノミック・Corp No(2) Steel Millを見学。鉄橋・高圧送電鉄塔などを製造。日本のODAにより20年ほど前から

操業。現場はホコリだらけで乱雑。国営企業はこんなものと説明がありました。日本製の古い設備が目につき、溶接作業や天井クレーンの運搬作業がヘルメットも安全靴も着用していないことに驚きました。



同日午後 ミンガラドン工業団地にある民営企業のトライアングルリンクス社を見学。鋼製構造体の製造工場

で、生コンミキサー車、橋梁、パイプラインなどを製造しています。社長は日本での技能研修の経験を持ち、工場内は保護具の着用など安全作業の確保や整理整頓などの管理が行き届いています。また日本でも大企業が所有しているサブマージアーク溶接機も投入されて品質、

効率を高めるように管理していました。

驚いたことに顧客からの受注が少ないときに自社工場で建設資材を作り内製で工場を順次拡張して、今後もまだ大きくするそうです。



同日午後2か所目はティラワ工業団地（日本向け経済特別区）・国際港を見学しました。三菱商事、丸紅、住友商事の3社が、在京投資会社を通じて、本年からティラワ経済特別区における先行開発エリア

『Class-A 地区』（対象面積 396ha）の現地開発事業体 Myanmar Japan Thilawa Development Ltd., (MJTD 社) を、ミャンマー民間企業連合と共同で設立し、



造成工事、区画整備等、2015 年半ばの第一期開業に向けて開発を進めています。

ヤンゴン中心市街地から南東に 23km の場所に位置し、2,400ha の広大な平原が続くような場所です。日本政府の円借款による本工業団地の周辺インフラ整備



（電力、港湾等）も行われ JICA から既に支援を受けています。日本企業の進出場所になります。

また、隣接のヤンゴン川にあるティラワ港にはコンテナをはじめ日本製や韓国製の乗用車・建設機・バスなどの中古車が保税区に所狭しと陸揚げされています。最近まで高値だったミャンマーの中古車市場

は値崩れが起きて、儲からなくなったからと、通関してから荷主が引き取りに
来ない事が原因となっているそうです。

8月17日 日曜日の為午前中市内の市場調査を兼ねてヤンゴン市内の大型ショッピングモールなどで買い物をしました。おもに衣類や雑貨が日本の5分の1程度の値段で販売されていました。ちなみにルビー・サファイアの宝飾品もありましたがそもそも統制品で品質は？の様でした。



午後はホテル近くにあるシュエダゴン・パゴダへ参拝見学に出かけました。入口で靴、靴下、ストッキングを脱ぎ、素足で境内に入ります。荘厳な雰囲気のある仏教寺院は15世紀ごろの建立です。伝説では2500年前とも言われています。



8月18日午前 今回招聘していただきました送り出し機関ミャンマーユニティーを訪問しました。現在法人設立が完了して海外への人材派遣ライセンスを政府に申請中です。3Eコーポレーション(日本)とJ&K(韓国)の出資でミャンマー人が法人代表者になって運営をしており、日本国内のサポートを日本人スタッフ4人で行っています。更に将来実績次第でミャンマー人スタッフも常駐予定とのことでした。訪問の際ハプニングが起きました。停電です。すべての電気機器がいったん止まった後、自家発電機が起動して復旧しました。2時間弱の滞在の間、自家発電機がずっと稼働していました。

今年からミャンマー政府は MOEAF（ミャンマー海外労務派遣協会）を窓口
JITCO と情報交換し、また MOEAF はミャンマー国内の監査指導機能を持っている
機関だと聞きました。

日本語教育は求人応募前に 3 ヶ月間実施し、その中から選
抜されて面接試験に合格後、更に 3 ヶ月間の合計 6 ヶ月間
（本邦外講習含む）実施しています。公的機関の推薦は直接政
府の推薦を一人一人受ける仕組みのために、時間が相当かか
るので改善が必要と感じました。

驚いたことに日本国内では J I T C O が 3 月時点で 1 0 1
社の認定送り出し機関と発表しているにもかかわらず、現地で
は既に二百数十社が存在しているようです。他に、既に送出し
実績を持っている送り出し機関及び外国語学校のハウ・ナンも
合わせて見学しました。

18 日 17：30 にヤンゴン空港でチェックインして、19：10 出発のベ
トナム航空 V N 0956 便でハノイ経由、中部国際空港に翌 19 日朝 6：55 無事
に予定時間通り帰国しました。

（文責：協同組合トピックス 専務理事 杉浦和博）

